

全佛通信

十一月号
発行所
財団法人
全日本仏教会
東京部中央区築地
三ノ一(本願寺四
三ノ一(本願寺四
電話 〇三三三
振替東京三三三〇
発行人 阿部竜伝
編集者 伊東堅純
印刷所 ルンビニ社

混迷を続ける

南ベトナムの政治状況

現地調査に中山国際局長派遣

南ベトナムのユニにおける仏教徒とゴ政権との衝突は、その後サイゴンを中心とした南ベトナム全土に広がり、ゴ政権に対する不満は日を追うて深刻になっているようである。以下は外務省側の資料に基づいて政情不安をつげる南ベトナム状況を再び探ってみた。

根強い仏教徒の不満

南ベトナムの人口は約千二百万人でその八割が仏教徒。此処の仏教は中国を通じて北部ベトナムから順次南下して来た大乘仏教である。李朝(一〇〇九—一二二五)、陳朝(一二二五—一四〇〇)の世界には大いに栄え、帝位を棄て仏門に投じた皇帝が三名も居る位である。所で南ベトナム仏教徒はかねがね熱心なカトリック教徒であるゴ・ジン・ジエム大統領のカトリック教徒偏愛政策に強い不満を持っている。ニューズウィーク誌は『ゴ政権の高官、知事、士官の殆んどはカトリック教徒であり、大

半の青年将校は大尉以上に昇進したければ、少なくとも表向きにはカトリックに改宗せねばならぬと思込んでいる。仏教徒達は政府が物資をカトリック教徒に優先的に配給していると云っている。ある米人顧問はカトリック教徒で構成されている部隊は非カトリック教徒の部隊よりも優秀な装備をしていると報告した……と報じている。然しゴ大統領とすれば無理もない点もあったようだ。ベトナムが南北に分割されたのは一九五四年のジュネーブ協定によってである。分割後共産政権下に入ること好まぬ約九十万の人々(主としてカトリック教徒)は北ベトナムから南ベトナムに移動して来た。ゴ大統領は殆んど裸一貫で逃げる必要があった。又、共産主義との対決を宿命とし、熱心なカトリック教徒であるゴ大統領にとって筋金入りの反共主義者であり、

同一宗徒でもある此等の人々に期待する所が大であったであろう。従ってゴ大統領が北ベトナム出身のカトリック教徒を重用した気持にはうなづけるものもある。しかしそれには程度があることは云う迄もない。その上、南北ベトナム人の間の微妙な関係がカトリック教徒問題にからんで南ベトナムの仏教徒、つまり大半の南ベトナム国民を一層刺激したらしい。南北ベトナム人間の微妙な関係とはこうである。

十七世紀頃まで現在の南ベトナムにはチャム人とカンボジア人が住んでいた。それを南下したベトナム人が段々にチャム人、次いでカンボジア人を駆逐していったもので歴史的には南ベトナムはベトナム人にとり新開地でもある。

ザロン(嘉隆)帝(一八〇二—二〇)の世に作られた大南律令は「蛮人(原住民)との交婚を禁止」していた。ということは南下したベトナム人と原住民の間でそのころ頻りに結婚が行なわれていた事を物語っていると云えよう。このためか、北ベトナム人と南ベトナム人とは顔形が一寸違う。風俗習慣にもかなりの相違がみられる。性格も一般的に北ベトナム人は働き者であり、南ベトナム人はのんびりしている。

戦前のことである。仏印政庁は人口過剰に悩んでいる北ベトナム人を出来るだけ南ベトナムに移住させる政策をとっていたが、のんびり者の南ベトナム人は働き者の北ベトナム人に職場をとられる場合があった。このような利害関係、風俗、習慣の違いなどが絡みあっ

て同じベトナム人でありながら、南ベトナム人と南ベトナムに在る北ベトナム人とは折合いがよくなかった。互いに相手をも他国者視し結婚も避ける傾向があった。

それなのに分割後、約九十万の北ベトナム人が移動して来たのである。南ベトナム人には彼らに対する同情心よりも警戒心の方が先立った様である。しかもゴ大統領は南ベトナム人には行きすぎとみえる保護政策をとった。それが、南ベトナム人にはカチンと来た。つまり(嫌う)北ベトナム人が南ベトナムに多量に入ってきた。(b)彼らはカトリック教徒である。(c)彼故にゴ大統領は彼らを偏愛していると云うことである。

南ベトナムの仏教問題はこうした事情を背景に発生し拡大した。しかもゴ政権に対して抱いている日頃の不満が彼等の怒りを激しくさせたらしい。

ゴ大統領と兄弟連
ゴ大統領はユニの名門の出。六人兄弟の三番目で兄のヨイは戦後共産ゲリラに殺害されたが他の兄弟は一九五四年七月ゴ政権設立と共に栄光の道を歩んだ。事実、ゴ大統領の兄弟、姻族は宗教界、官界の要職を占めている。彼等の中にゴ・ジン・ニエ夫妻の挙動が常に話題となっていた。

ニュー政治顧問は秘密警察、特殊部隊、共和青年団をひきいて此等の組織をバックとしてゴ政権の最大の実力者と云われている。ニュー夫人は先般「バーベキニュー発言」をして全世界のひんしゅくをかかったが仲々のヤリ手で、国会議

員として婚姻法の立法にたづさわり、一夫多妻、めかけ制度を徹底し、未成年者の飲酒の禁止、ダンスの取締り等で功績をあげた。又一方南ベトナム婦人連盟を結成し婦人運動を指導した。しかし彼女に対する一般民衆の目はかなり批判的で、一九六〇年十一月クーデターをおこしたパラシュート部隊はそれが失敗に帰したが、このスローガンの一つにニュー夫妻の追放が掲げられていた。これを以てしても南ベトナム人の彼女に対する感情が想像出来るであろう。

苦しいアメリカの立場

前述のように南ベトナムの仏教徒問題は根深く、もはや単なる宗教問題でなく政治問題化している。然しゴ政権は弾圧によりこの問題解決をはかり、八月二日には戒厳令を断行し、仏教徒に同情して立ち上った学生にも仮借なき弾圧を加えた。このヤリ方に困惑したのがアメリカである。

アメリカは過去、反共と、ゴ政権育成のため総額二五億ドルに及ぶ経済、軍事援助をつぎこみ一万四千名の軍事顧問を投入して来たが、ゴ政権は国民の大多数を占める仏教徒と衝突し、自ら共産ゲリラ(ベトコン、約二万五千)に乗るスキを与える形となり、その上国際世論、特に隣接する仏教諸国のゴ政権に対する風当たりが強くなり、アメリカも黙視出来なくなってきた。

米國務省は八月二日「仏教指導者に対する南ベトナム政府の弾圧行為を遺憾とする」旨の声明を發表し、次いで八月二六日「我々が現在入手して(二頁へ四段へ)

訪中日本仏教代表団より便り 盛大な鑑真和尚上慶讚行事

南へ問題臨時集会にも出席

既報の訪中日本仏教代表団(金剛秀一団長)一行九名は去月二十七日離日後中国各地における鑑真和尚上慶一千二百年記念行事に参列しているが、今般次のような報告が同団秘書長柳了堅師よりあった。

記

九月二十七日 香港着、帝国飯店宿泊

二十八日 香港発、広州市着市内観光、夜同市仏教会歓迎会出席

二十九日 広州飛行場より北京へ出発、午後四時北京飛行場着、新橋飯店投宿

三十日 午前十時中国仏教協会(広済寺)訪問

午後七時国慶節前夜祭に招待さる。人民大会堂に五千人が参加。

十月一日 午前十時国慶節に参列、天安門前大広場に百万人参加、盛儀を極む。午後日程打合せ、自由行動、夜七時国慶節交歓会に参列。

二日 仏舍利塔参拝(靈光寺境内)十三層の立派なもの。昨年二億五千万円で中国仏教協会によって建立された。次いで万寿山周遊。夜民族文化宮にてオーケストラに案内さる。

三日 午前十時より広済寺において中国仏教協会、日本仏教代表団共催にて鑑真大師記

念大法要が開かれ、一同装束をつけて参勤読経をなす。北京の僧侶二百名、居士百余名が参列。正午北京飯店における準備委員会主催の歓迎会に出席、金剛団長、大西代表が夫々代表挨拶をなす。午後三時半より六時半迄に仏学院(法源寺内)視察す。川明俊師挨拶。各代表も挨拶をなす。

四日 午後三時より政協会堂に於て鑑真大師準備委員会(中国各団体によって国家的構成をなす)の記念大集会に参列。司会対外交協会長、趙撲初主任委員の経過報告、金剛団長の講演、安藤文化界代表団長の講演後、鑑真像の贈呈、仏教代表団長から揚州の記念堂へおくる、日本遣徳奉讃会よりの大香炉を贈呈し、一同読経をなす。千五百有余名が参列。午前九時中日友好協会創立大会に出席(於政協会堂)、中日朝野約二千人参加、大西長老が演説す。夜七時より人民大会堂に於ける日本工業展の開会を明日に控え、中国貿易促進委員会南会長の招待会に参席、石橋湛山氏等日本人関係者、中国各界より約一千名が出席す。

五日 午前八時五十分北京空港より西安市へ向い、午後一時半着。

六日 西安の各大寺を巡拝。
七日 西安より空路北京へ帰る。
八日 北京より上海へ。
九日 上海に滞在。
十日 杭州に到着し滞在。
十一日 杭州より南京へ。
十二日 南京に滞在。棲霞寺にて鑑真大師像を安置するための法要が営まれ参列し、終つて各寺を巡拝す。

十月十四日 南京より揚州へ。
十五日 揚州法浄寺にて鑑真大師記念堂鎮入式に参列。
十六日 揚州より上海へ。
十七日 上海より北京へ。
十八日 北京にて南ベトナム問題に関する東南アジア十一カ国(中華人民共和国、北朝鮮、パキスタン、北ベトナム、南ベトナム、ラオス、カンボジア、ネパール、インドネシア、日本ほか)代表者。臨時集会に出席

二十日
二十一日 早朝広州着。午後より肇慶へ。榮毅法師(鑑真和尚を迎えるため渡唐せし日本僧)の逝去されたこの地において一同礼拝、読経をなす予定。今回中国仏教協会が記念碑を建立した。

二十二日 広州へ帰り同夜宿泊。
二十三日 午前中に広州を出発し、列車にて香港へ。午後一時頃香港到着の予定。同夜香港宿泊。
二十四日 午後空路香港発、夕刻羽田到着の予定。さて大變御無沙汰しております

が、皆様には御変りなく為法に御尽粹の御事と存じます。日夜団の事務に忙殺され、十分な連絡も出来ません。お蔭様で誰一人として事故もなく元気一杯各地を巡回いたしております。故、御休心下さい。なお帰国は当初よりやや遅れ二十四日夜羽田着と予定いたしております。各位の御健康を念じつつ筆を置きます。 敬具
十月八日 上海へ出発直前記す
訪中日本仏教代表団
団長 金剛秀一
秘書長 柳了堅

なお一行は十月二十四日帰国するが、全仏、鑑真和尚奉讃会共催の帰国歓迎会は翌二十五日午後五時から東京音羽の真言宗豊山派宗務所講堂で開く。

(一頁よりつづく) いる情報ではサイゴンに於ける寺院襲撃や男女僧の逮捕は南ベトナム軍部の命令とは関係なく、特殊部隊の小さな集団に支援された警察によって行なわれた事は明らかである」との声明を出した。「特殊部隊の小さな集団」とはニュー政治顧問のひさるの特殊部隊三個大隊を指したものであろう。米国務省側のネライは①南ベトナムを混乱させた責任をニュー夫妻に負わせてその引退を迫り、②ゴ大統領の下に事態の收拾を南ベトナム軍に委せる、こととあったもようであるが、その米側の意図は見事にはづれ、翌二七日南ベトナム統合参謀本部は「仏教徒襲撃の全責任は軍部にあり」とのコミニケを発表したものである。一方ゴ大統領は二十八日仏教徒代表と会見し仏教徒とカトリック教徒の平等尊重を確約し、

逮捕した学生全員を釈放するなど軟化作戦を打ち出し、ゴ政権の体質改善をねらう米側と対決する気構えを見せている。ケネディ大統領は九月二日の全米テレビ放送で「アメリカは引続き南ベトナム政府の共産ゲリラ掃滅を援助するが、ゴ政権が民衆の支持を回復せぬかぎりその戦いは勝てない」と強調した。このようにユニに端を発したゴ政権と仏教徒の衝突は大きく発展し、更にはゴ政権とアメリカとの対立に進んでいる。南ベトナムの政治情勢にはまことに複雑なるものがあるようだ。

全仏では南ベトナム事件の真相を究明するため、十月末に現地調査団を派遣するよう準備を進めていたが、これは南ベトナム問題日本仏教協議会(代表清水谷恭順師)側の意向として全日本の仏教徒が一丸となって苦悩する南ベトナム仏教徒を支援することが本来の意味であり、全仏の常務理事会(十月二六日開催)でもこの真意を受入れ、今後は全仏自体で救援活動にのり出すと云う腹がまえが出来たからである。なお全仏中山国際局長は十月三十一日午前十一時十五分羽田発のAF機でサイゴンへ向った。

全仏国際局へはその後続々と南ベトナム仏教徒を救えと云う要請や署名簿、或いは浄財が寄書せられていくが、特に長崎市仏教連合会(本原義岳会長)からは合計一万五千人の市内寺院住職信徒よりの署名簿が送られて来ており、近く池田首相、在日南ベトナム大使館などにとどけて、日本仏教徒の総意として強く訴える。

古代の宗教的情熱

印度古代美術展開く

十一月三日より 東京国立博物館で

大学生二百円、小、中学生百円)

駐日セイロン大使

新任歓迎パーティ開く

来る十一月三日より明年一月十二日まで、東京上野の国立博物館において、「インド古代美術展」が在日インド大使館、東京国立博物館、日本経済新聞社等の共催により盛大に開催されるが、それにより同日午後二時から東京国立博物館本館一階正面階段前に於て三笠宮妃殿下の御臨席を得て盛大に開催される。なお終つて同所にて記念レセプションが開かれる。全仏からも高階瑞仙会長が出席する予定である。



手紙を書く婦人像

なおこの美術展は東京における展示が終ると明年一月二十六日から三月十五日まで京都市美術館にて開かれる。

この展覧会はインド古代美術の代表的なものを系統的に展示し、紀元前二千五百年頃のインダス文明から、百年ほど前のものまで合計二百四十七点を並べ、ガンダラの仏像、ジャイナ教の怪奇な彫刻、ヒンズー教の石造、青銅美術が中心をなしており、宗教家、特に仏教徒の多数観覧がのぞまれている。(観覧料は大人三百円、高

本年三月初旬急逝された駐日セイロン大使故サリ・スサント・デ・フォンセカ氏の後任として、過般着任したM・M・マハルーフ氏の新任歓迎パーティ開く

新任歓迎パーティ開く
本年三月初旬急逝された駐日セイロン大使故サリ・スサント・デ・フォンセカ氏の後任として、過般着任したM・M・マハルーフ氏の新任歓迎パーティ開く

なお新大使はキャンディの名家の出身で回教徒であるが、一九五七年以来、パキスタン、インドネシア、アラブ連合駐在大使を歴任された。

ベトナム国立記念レセプション

駐日ベトナム大使館(グエン・フイ・ニア大使)では十月二十六日午後六時から、東京港区芝高輪の光輪閣において、ベトナム国立記念レセプションを開催する。当日は全仏からも局長、部長ら数名が列席することになっている

ビルマ仏教研究に

留学する田宮師

ビルマにおけるテラヴァーダ仏教を研究し、併せて戦跡甲斐の旅に出発しようとする日本僧がいる。この人は曹洞宗所屬の方で田宮黎友師(37才)、新潟市附舟町一丁目興源寺住職で、出来れば明年末までに三ヶ月の予定でビルマの小乗仏教研究の目的と、第二次大戦で多数の犠牲者を出した各地所の弔慰を兼ねて出発したい、かつてビルマ派遣留学僧として活躍した五島行宣師(東京世田谷区東玉川町浄行寺)や、ビルマ各地の弔慰の旅をつづけられた鈴木鍊成師(宮城県女川町妙照寺)らに交渉しよう田宮師に依頼した。

妙心寺派代表の訪中延期
明春渡航に決まる
臨済宗妙心寺派の古川大航管長一行八名は、開教と親善をかねて十月十五日に中華民国(台湾)を訪問する予定で準備をすすめていたが、このほど中国仏教会(白聖理事長)より九月中旬台湾を襲った台風により甚大な被害を蒙り、ために充分な歓迎も出来ないで残念ながら招請を見合せたいと書面で申越して来た。なお明年四月頃にあつたためお招きしたい意向なので妙心寺派ではこのことを了承し、過日全仏国際局を通じて中国仏教会あてに回答した。

ハワイカナオへに

京都平等院を建立か

日系人の精神浄化が目的

ハワイの三世、四世の日系人の精神面の浄化と、母国日本に対する郷愁を満す目的で、ハワイのカナオへに日本寺院を建設する計画がすすめられている。

先般この計画にタッチしている溪谷の寺院記念公園ワイキキ開発会社の副総支配人ウイリアム・ヴィック、同社渉外部チャールズ・B・須田の両氏が全仏を訪れこの計画に対する全仏の協力を依頼して来た。

それによると同社はハワイのカナオへ(ホノルル郊外)に百万坪の土地を買い入れ、此処へ京都の宇治平等院を模した寺院を建立し(本堂は比叡山延暦寺大講堂と同

石や塔籠その他を各本山から払い下げることに關する協力の件、③關係各宗代表、全仏代表らを落成式典に招請すること、④日本における仮連絡所を全仏内に設けて頂きたいの四点について全仏の斡旋、協力を依頼した。

なおこれらに要する一切の費用は右開発会社が負担する由であり行く行くは墓地等の開発にも着手したいと云っている。

全仏としては本件について取り敢えず来日中の本願寺派ハワイ開教総監森川智徳師に対し種々内意を伺う書面を提出した。

森川智徳師を囲む会

長年に亘つて浄土真宗本願寺派ハワイ開教総監として開教に尽力している森川智徳師を囲む会は、田丸道忍、常光浩然両師が発起人となつて、来る十月二十七日午後五時から東京日比谷松本楼にて開催する。

当日は全仏麻布事務総長ら局長、常務理事が多数出席する予定。

橋本凝胤師南越へ

核禁平和使節団の一員として欧州各地を訪問している佐瀬淳光師から全仏国際局へといた通信によると、橋本凝胤師はパリで一行から別れて南ベトナムの現地に赴き、今回の事件の真相調査を行なうことになった由である。なお同師の帰国は十一月一日頃の予定。

◎真宗大谷派では同朋会運動を前進させるために、終戦後の混乱期の二十一年に制定された現行宗憲の再検討を迫られ、去る六月の定宗で宗憲改正の件が議決されていだが、その宗憲調査会を九月一日発足させた。同会は、▼総則、教宗議会議、▼機関、本山、▼地方行政宗議会議、▼寺院、公益事業、▼堂班制度、財務関係の三部門に分け、調査審議をすすめることになった。

ス ニ ュ ー ス 教 界 仏

◎奈良六大寺で寺宝物類の貸出料を定める。奈良の有名六大寺で組織する隣山会(東大寺、法隆寺、興福寺、薬師寺、唐招提寺、西大寺)では、昨年末、営利を目的とした寺宝の撮影料金を徴集することにしたが、このほど寺宝類の貸出しにも料金を取ることにした。これによると貸出料は、輸送日数を含めて二十日以内とし、有名な法隆寺の夢殿観音や薬師寺の吉祥天などは五十万円、東大寺の誕生仏や興福寺の仏頭は三十万円と、それぞれ個々にわたって料金が決められ、その他重要文化財は十万円を基準として、関係者が協議することになっている。なお、この料金の徴集は営利を目的としたものに限るといふ。従って博物館などへの出陳は別問題とされている。

◎高野山真言宗では来たる昭和四十年の開創一千一百五十年記念法会(四月一日~五月二十日)の五十日間に団参一〇〇万人を予想し、大阪に団参事務所を設け、全国を

八ブロックに分け、全国に約六〇の地方団参本部を発足させるなど大童であるが、八月七日、高野山開創奉讃会を新大阪ホテルで発会させ、会長に佐藤榮作国務大臣が就任した。

◎人事関係
管長に中村健寿、宗務総長に大岡俊謙両師が就任した。
大阪府仏教会
会長に間野敬重師(真宗大谷派)が再選された。

訓 理 事 長 送 会

全青教、全仏共催で開催

既報のとおり全仏新理事長訓理信雄師は大谷派の宗務をおびて来、南米、欧州各地へ出発されたがそれに先立って全仏、全青教共催による渡航送会が十月八日午前十一時より東京音羽の真言宗豊山派宗務所講堂において開催された。会は先づ白川良純氏の司会で、阿部竜伝全仏総務局長が開会挨拶をなし、麻布照海事務総長の歓迎の辞、ついで平林有全青教事務総長が挨拶。次に訓理理事長が立って挨拶をなし、「この機会に各国の青少年教化の実態をつぶさに調査して来たい」と述べた。つづいて金子弁平全仏常務理事が立って、気軽に平安な旅をつづけられ再度び英姿に接したいと挨拶をなし、来馬道断師の発声にて乾杯を行い、会食に入った。ついで、テールスピーチに移り、宮前鳳洲、為郷恒淳両師が夫々挨拶をなし、司会者より理事長の全スケヂュールの発表があり、全青教事務局次長浅井堅教師の閉会の辞で会を閉

じた。当日は全仏側、全青教側から約三十名が出席した。
なお訓理理事長は同日夜十一時十五分羽田発のPAA機で出発したが、中山国際局長が空港まで見送った。帰国は十一月十七日頃の予定。

神 奈 川 県 仏 理 事 会 開 く

神奈川県仏(会長高橋隆天師)

では十月十日午後一時から県仏事務局で理事会を開催し、檀信徒大会の推進の件、相互援助組合の推進方法についてその他墓地問題等の事項を協議したが、目下懸案となっている南ベトナム問題についても熱心に協議した。当日は全仏本部から中山国際局長、福井主事が出席し、全仏の現在まで行ってきた本問題の経緯について逐一報告をなした承を求めた。

第二回鳥根県仏教徒会議開催

南 へ 事 件 に 声 明

鳥根県仏教会においては昨年、第十回全仏大会に刺激されて、最初の県仏大会を松江市において盛大に開催し、多大の成果を収めたのであるが、今般、全県下寺院の賛同のもとに九月二十九日、同県浜田市の真光寺において第二回大会を挙行政した。

その趣旨とするところは、寺院僧侶と一般檀信徒の忌憚のない会議に依って、仏教徒としての大きな反省と自覚を深めてゆくと共に現代の社会を根元から救うもの、失なわれてゆく人間性を回復するもの、平和を渴望しながら平和にならぬ人間社会の危機、それは一体何故であるか。更に社会浄化、

人造りの基本的構想、寺院教団の再編成、仏教人口の組織化、時代にマッチした寺院の教化活動、或は、仏教寺院の政治経済対策、国土の美化運動、青少年対策の諸問題等燃眉の急務について心おきなく話し合つて、明日への生活に光明をかかげようとするものである。なお、当日は記念講演として中外日報社長吉田留次郎氏のお話があり、又この会議において、南ベトナムにおける仏教徒弾圧に対する抗議の声明書が満場一致で決定、宣布された。その要旨は、ゴジンジエム大統領の信仰の自由の弾圧と基本的人権の蹂躪に対する断乎たる抗議と共に、ベトナム仏教徒に対する救援活動を強力に展開推進する、というものである。

日本仏教保育協会の年次総会

日本仏教保育協会(大谷光照会長)では、来る十月二九、三〇の両日にわたって、年次総会並に研究会集を静岡市の八洲園で開催する予定である。

本年は御承知の如く、私立幼稚園保育園の興廃にもかかる保育行政強化問題を中心とする重要案件が審議されることになっているが全仏においても、仏教保育の重要性にかんがみ、激励と協力のため本部職員として岩本昭典組織部長を派遣することに決定している。なお、明年六月初旬には静岡市において第十二回全日本仏教徒会議が開催されることになっているので、岩本部長はこの大会準備に当たっている方々とも懇談したい意向である。

野田市(千葉)仏教徒会議開催

野田市仏教会(勝田光有会長)

では、恒例の同市文化祭の一環として、市仏教徒会議を去る十月二十二日、同市興風会館において開催した。全仏からも、伊東堅純総務部長が出席して仏教界の現況を報告し会議を盛り上げた。

又、記念講演として、芝園理事長松本徳明博士のお話は満場の会員に深い感銘を与え、この会議の内容に更に一層の華を添えた。更に会議終了後、同会館において記念パーティが開かれ、くつろいだ雰囲気の中に、仏教徒の今後のあり方についての隔意のない意見が開陳懇談された。

毎年この会議を運営される、市仏会長勝田光有師、並に各役員の労を多とするものである。

全仏では昨年末より時局対策協議会で、創価学会対策の資料出版を急いでいたがこのほど次のとおり完成を見た。全仏では全国同信各位の御一読を切望している。

新 刊 紹 介

一、創価学会の批判的解明

本書は創価学会の実体調査に基づき学会の現況とその教義を痛烈に解剖し批判している。(定価一部二百円送共)

二、寺院の新しい社会教育活動

仏教寺院の布教、社会活動新方策のポイントを指点的している。(一部百四十円送共) 申込は全仏組織局へ